

令和5年度 庄原市学校・警察連絡協議会

開催日：令和5年12月7日（木） 開催場所：庄原市総合体育館 第2会議室

参加者：庄原警察署、北部こども家庭センター、庄原警察署管内少年補導協働員連絡協議会、庄原市主任児童委員、庄原市内県立高等学校、庄原特別支援学校、庄原市内小・中学校、広島県教育委員会、庄原市児童福祉課、庄原市教育委員会

広域化、低年齢化する児童生徒の問題行動及びいじめ問題等について、学校と警察、関係機関等が組織的な連携を深めることを通して、児童生徒の問題行動及びいじめの未然防止を図ることを目的とし、研修会を行いました。

【講話】 「少年非行の現状と課題について」

庄原警察署 生活安全刑事課 生活安全係 係長 中尾 徹

広島県内の非行少年総数は増加傾向にあり、令和4年度は令和3年度と比較すると92人（16.0%）増加している。庄原市の非行少年総数は昨年度と同数であり、不良行為少年総数は減少している。令和4年度の県内の大麻取締法違反容疑で摘発した20歳未満は過去最多であった。SNSでの広がり背景にある。小中学生もスマートフォンを使用して当然の時代となりつつある。子供の変化にいち早く気付くのは保護者である。「スマートフォンをいつも見ている」「行動が変わる」などの前兆を見抜いてほしい。また、保護者として「子供のスマートフォンをいつでも見る」といった、子供と保護者との関係づくりが大切である。



【講話】 「児童虐待の現状と関係機関との連携について」

広島県北部こども家庭センター 相談援助第一課 課長 溝上 利枝

広島県内の児童虐待の相談件数は増加傾向にあり、北部地域でも同様である。一時保護も増加傾向にある。身内からの心理的虐待が多い。児童虐待の相談は学校や警察からが多く、関係機関と連携した対応が重要となる。関係機関との連携には、はっきり線が引けない中間の領域があることを十分認識して、お互いの力量や立場を考慮して、カバーし合わないといけない。



【講話】 「庄原市における生徒指導上の諸課題の現状と課題について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福田 和宏

全国及び広島県の生徒指導上の諸課題と比較しながら、庄原市の生徒指導上の諸課題について説明した。全国の暴力行為、いじめ認知件数、不登校児童生徒数はいずれも過去最多であった。本市においても、生徒指導上の諸課題は増加傾向にある。

【講話・演習】 「暴力行為の対応と未然防止」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福田 和宏

生徒指導を進める際には、「自己指導能力の育成」「PDCAサイクルを意識した生徒指導」「チーム支援による組織的対応」の3つのポイントが大切である。暴力行為への指導・支援について、暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造の、どの階層の取組を行っているのか把握する必要がある。また、未然防止に向けて、発達支持的生徒指導及び課題予防的生徒指導をいかに充実させるかがポイントである。



【指導・助言】 広島県北部教育事務所 教育指導課 指導主事 塩田 佐恵

広島県内の暴力行為は増加傾向にあり、大きな課題である。未然防止に向けて、児童生徒一人一人が意見を交わし、合意形成を図り、共感的人間関係を築くことが重要である。その際には、広島県教育委員会のHPにある特別活動の実践事例集が参考となる。今後に向けて、児童生徒理解に一層努めるとともに、児童生徒が安心感をもてる取組を推進することが大切である。

（事後アンケートより）

- ・演習を通して、改めて教職員間での児童生徒の共通理解が必要だと感じた。自校の実態交流の際に、研修で得たことを還元していきたい。
- ・PDCAサイクルを意識した生徒指導が参考となった。いじめ防止委員会を中心に、取組に生かしていきたい。
- ・未然防止に向けて、「他者を思いやり、傷つけない人」に育つことを意識した、校内の雰囲気づくりに努めていきたい。